

支部情報報

光支部

光あふれる学校づくりを

目指して

光市民憲章の前文に「美しい自然と輝かしい歴史をもつ希望のまち」とあるように、光市には、美しい白砂の海岸や、国指定の史跡である石城山神護石などがあり、伊藤博文公の生誕の地としても知られている。校長会では、このような「ふるさと光」をこよなく愛し、夢と希望と誇りをもった子ども育成を目指して、よりよい学校づくりに努めている。

小学校長会は、光市十一校と附属光小学校一校の計十二校で構成され、月一回程度の定例会をもっている。

研修については、平成二十四年度より「一人一人を大切に実践的な態度を育てる人権教育」をテーマに掲げ、研究に取り組んできた。

視点を、人権を尊重する体制づくり、



(塩田小学校 岡崎英子)

実践的な態度を育てる教育活動の推進、家庭・地域・関係機関との連携・協働の三点に絞り、各校の特色を生かしながら実践研究に努めた。

成果としては、人権教育の観点を明確にした学校評価の取組等により校内体制づくりが進んだこと、授業改善や家庭・地域・関係機関との協働実践を通して児童に実践的な態度が身につくこと、また、教職員の人権感覚が磨かれ、指導力の向上が図られたことなどがあげられる。これらの成果は、本年度、山口県小学校長会秋季大会及び中国地区小学校長研究大会の人権教育部会において、提案支部として発表した。

また、市立の十一校では、光市コミュニティ・スクール推進事業を受け、平成二十四年度より全小・学校に推進委員会を立ち上げ、設置に向けての準備を進めてきた。

いよいよ平成二十六年度から、全小学校が正式にコミュニティ・スクールに指定されることになる。

地域ぐるみの学校づくりが進む今日、これまで以上に市内十二校の連携を密にすることが大切である。研修の成果を生かし、きめ細かな協議と情報交換を行い、さらに活力のある光あふれる学校づくりを目指したい。

実践的な態度を育てる教育活動の推進、家庭・地域・関係機関との連携・協働の三点に絞り、各校の特色を生かしながら実践研究に努めた。

支部情報報

支部情報報

山陽小野田支部

チーム力は、雑談力

山陽小野田市校長会は、平成十七年の旧小野田市と旧山陽町の合併により誕生した。

小学校十二校、中学校六校（一校のみ校長が小中を兼務）、特別支援児童生徒を対象とする分校が、一校（校長兼務）の比較的小ぢんまりとした校長会である。本年度は、男性ばかりの校長会であるが、団結力は固く、機動力もあり、雑談力が、最近のキーワードとなっている。

定例会は、小野田地域と厚狭地域のバランスを考えて会場を設定している。回数としては、月に一回である。

定例会は、原則として、小中学校の校長が一堂に会することになっており、小中連携も行いやすい環境にある。市教委等からの説明、指示伝達に続いて、学校運営や生徒指導上の情報交換、小中連携推進等を行っている。最近では、各学校の資料を持ち寄り、学力向上や人材育成に関わるテーマで、小中合同の研修を行っている。

小学校部会では、来年度秋の校長会

県大会に向けての提案準備が中心となった。

本市小学校長会の提案は、第九分科会学校安全、テーマは、「命を守る安全・防災教育の推進」である。研究の視点等については、現在、検討中であり、今年度、安全教育部門で、内閣総理大臣賞を受賞した有帆小学校の実践を中心に、各学校の実践を持ち寄り、年度末までには、骨子を固め、提案ができるよう総力をあげて、取り組む予定である。

支部が、一致団結して創り上げていく過程を通して、学校安全・防災教育に対する認識を深め、個人の資質を高めることができることを期待している。「研修は、楽しくなければならぬ」を合い言葉に、雑談力にも力を入れて課題解明に、チーム意識をもって取り組むたい。



(赤崎小学校 野村一也)